

## 園田学園女子大学…村の有志が建学

園田学園女子大学は、1938年（昭和13）当時の園田村長中村龍太郎の下で村の有志と共に「財団法人園田教育振興会」設立したことに端を発します。同年、園田村森（現南塚口町1丁目）に、女子大の前身である園田高等女学校が建てられました。1948年7月新制高等学校の認可を受け、1951年4月園田高等学校と改称し、同時に学校法人園田学園の認可を受けました。小・中・高等学校の一貫教育を目標としましたが、1955年2月に設置認可の小学校は1966年より児童募集を停止しました。



近代的知性と情操豊かな社会人の育成を目標に、1963年4月女子短期大学（家政科）、1966年4月女子大学文学部（国文学・英文学科）を栗山（現南塚口町7丁目）に創設、1968年には短期大学に文科（国語・英語専攻）および幼児教育科も増設されました。

中村は、女子の高等教育の普及と共に、園田高等女学校が地域がつながることで、人と人、人とモノの交流、教養人材と知の集積、育成を通して、村全体の活性化を図ることをねらいとしました。園田の建学の精神やポリシーに地域という言葉が、幾度も出てきたり、社会連携推進センター地域連携・研究支援ユニットを創設したのは、こうした中村の熱い想いを汲み引き継いだものです。昭和の初期、村が主体となって上坂部村の枝村である森村（現在のの上坂部 森地区）に設立した女子大（高等女学校）…教育と地域振興に熱い想いを抱いた村の人々には、感服するばかりです。

### 建学の精神・大学理念 捨我精進

私たちは、人が社会で生きてゆくうえでの理想である「他者への思いやりの実践」に勇敢、ひたむきであらねばならない。

昭和13年（1938年）、当時の園田村村長中村龍太郎により、園田学園の前身「園田高等女学校」が設立されました。戦時下という状況にありながら、どうかして地域の女子教育振興を図りたいという熱い思いを抱き、建学を成しとげました。この時に、「園田高等女学校の教育方針」に掲げられ、創設者自ら実践したのが〈捨我精進〉の精神でした。

「捨我」とは、人を愛し自分の為すべきことに全力をつくすことです。「精進」とは、幸福な世の中をつくるため勇気を持って挑戦することです。現代に置き換えると、相手の身になって考え、誠実に行動し、仲間と協力して幸せな社会をつくるために努力することと解釈できます。そこには、自己と他者の存在を認識し、互いの違いを認めあえる成熟した人間関係が生まれます。（園田学園女子大学HPより）

なお、南塚口町3丁目浄土真宗本願寺派の専念寺に隣接する愛宕山権現の灯ろうに中村龍太郎の名前が入っています。大正五丙辰年拾月 建之で献灯されています。また、大学内には中村の銅像があります。

参考資料 - apedia 園田学園